

メバチ 大西洋

Bigeye tuna *Thunnus obesus*

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：17 歳以上
- 性成熟年齢：3 歳で始まり、4 歳以上で全個体が性成熟に達する
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のマグロ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のマグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類

利用・用途

刺身、すし、缶詰等に利用されている。

漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が人工浮き魚礁 (FAD) 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の約 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は概ね 6 万～8 万トンで推移し、2023 年の総漁獲量は約 6.1 万トン (暫定値) で、総漁獲可能量 (TAC) (6.2 万トン) を下回った。2023 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約 60% であり、まき網の漁獲は約 23% である。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りでは 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

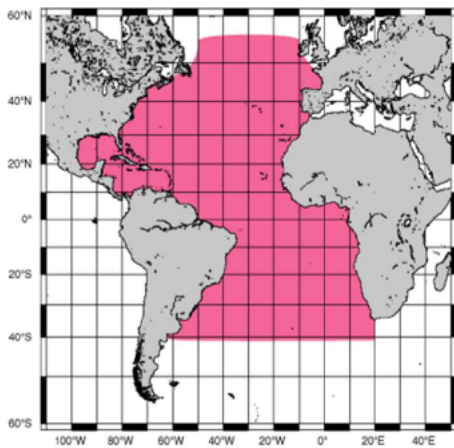
資源状態

ICCAT の科学委員会は、2021 年に資源評価を実施し、統合モデル (SS3) による結果を管理勧告に用いた。結果として、最大持続生産量 (MSY) : 7.2 万～10.6 万トン (中央値 8.7 万トン)、MSY を実現する漁獲死亡係数 (F) 及び産卵親魚量 (SSB) に対する比は、各々 F/F_{MSY} : 0.63～1.35 (中央値 1.00)、 SSB/SSB_{MSY} : 0.71～1.37 (中央値 0.94) と推定され、資源状態は乱獲状態であるが過剰漁獲ではないとされた。2021 年時点の TAC (6.15 万トン) を維持した場合、2034 年に資源が乱獲状態及び過剰漁獲でなくなる確率はおおよそ 97% とされた。

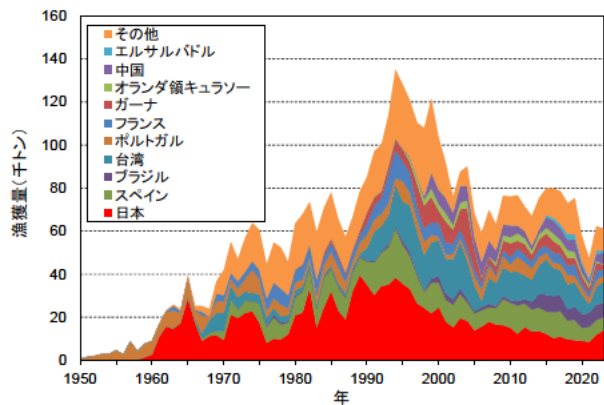
管理方策

2021 年の資源評価を受け、2021 年 11 月の ICCAT 年次会合にて熱帯まぐろに関する管理措置が一部改定され、2022 年の TAC は 6.15 万トンから 6.2 万トンに微増された。しかしながら、国・地域別割当量の合計は TAC を超過しており、漁獲割当のない国による漁獲量増加もあって総漁獲量が TAC を超過する状態が見られたことから、包括的な管理措置の検討が続けられた。この結果、2024 年の ICCAT 年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が改定された。TAC は 2024 年の 6.2 万トンから 2025 年～2027 年は 7.3 万トンに増枠、日本の漁獲枠は 13,866 トンとなる。2026 年と 2027 年の TAC は、2025 年に実施される資源評価に基づき、2034 年に資源が過剰漁獲や乱獲に至らない確率が 65% 未満であれば削減が、70% 以上であれば増加が、それぞれ 2025 年の年次会合で検討される。また、まき網等の FAD 操業について、従来の条約区域全体での 72 日間の FAD 禁漁を、2025 年のみ 45 日間にすることとし、2026 年以降の措置については、2025 年の資源評価を基に 2025 年の年次会合で検討することとなった。一隻あたりの FAD 数の上限については、従来の 300 基から 2026～2027 年は 288 基まで削減することとなった。

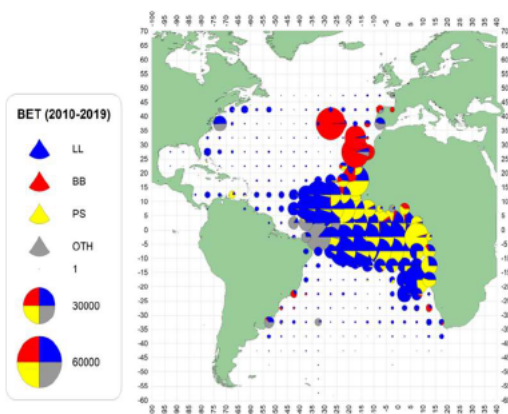
メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 （最近5年間）	4.7万～7.5万トン 最近（2023）年：6.1万トン 平均：6.1万トン（2019～2023年）
我が国の漁獲量 （最近5年間）	0.9万～1.4万トン 最近（2023）年：1.4万トン 平均：1.1万トン（2019～2023年）
資源評価の方法	統合モデル（SS3）による解析
資源の状態 （資源評価結果）	$F/F_{MSY} = 0.63 \sim 1.35$ （中央値 1.00） $SSB/SSB_{MSY} = 0.71 \sim 1.37$ （中央値 0.94） 2019年の資源状態は、過剰漁獲ではないが、乱獲状態である
管理目標	MSY：7.2万～10.6万トン（中央値 8.7万トン）
管理措置	OTAC 2025年：7.3万トン（日本：1.39万トン） OFAD 操業の禁漁期 2025年：条約区域全体で45日間 OFAD 数制限 1隻あたり300基まで（2025年） 1隻あたり288基まで（2026年～2027年）
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2021年
次回の資源評価年	2025年



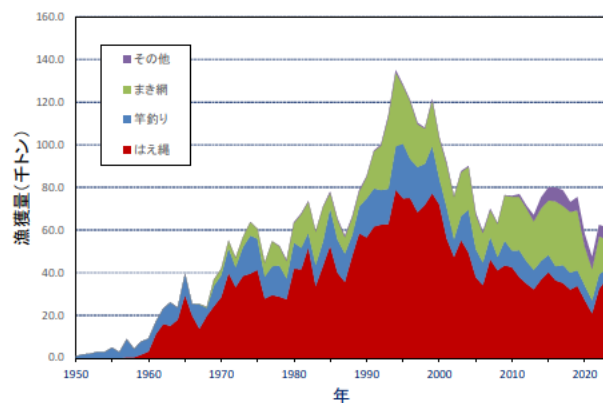
大西洋におけるメバチの分布



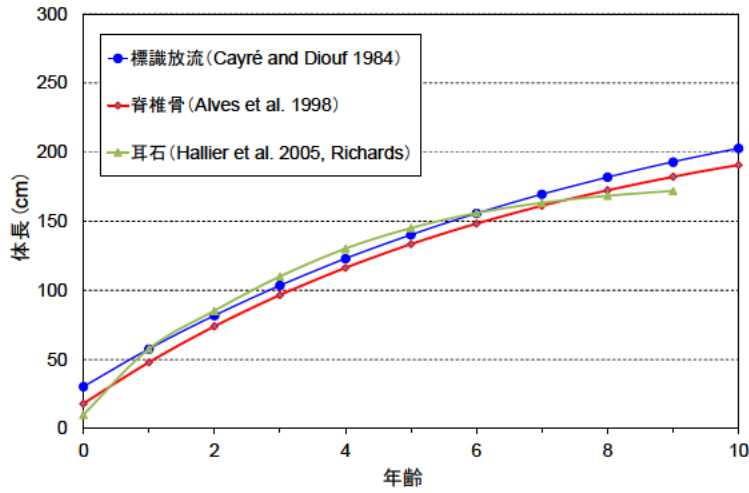
大西洋におけるメバチの国・地域別漁獲量（1950～2023年）



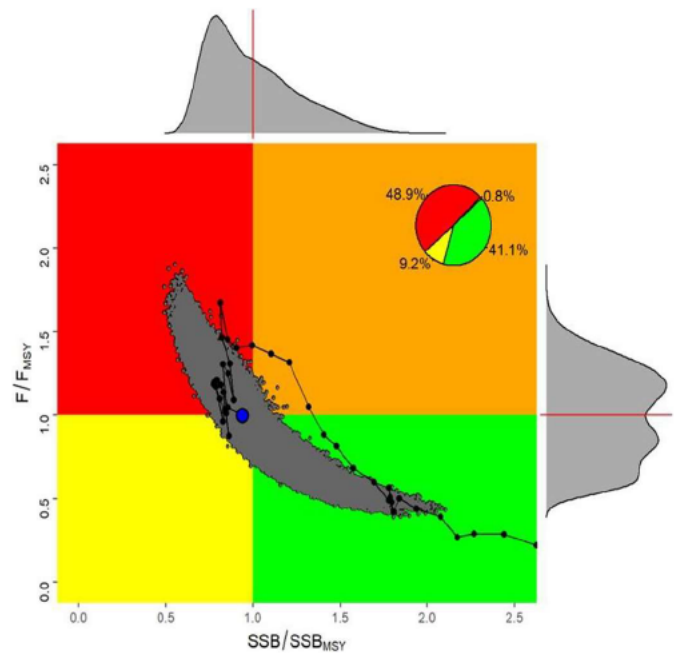
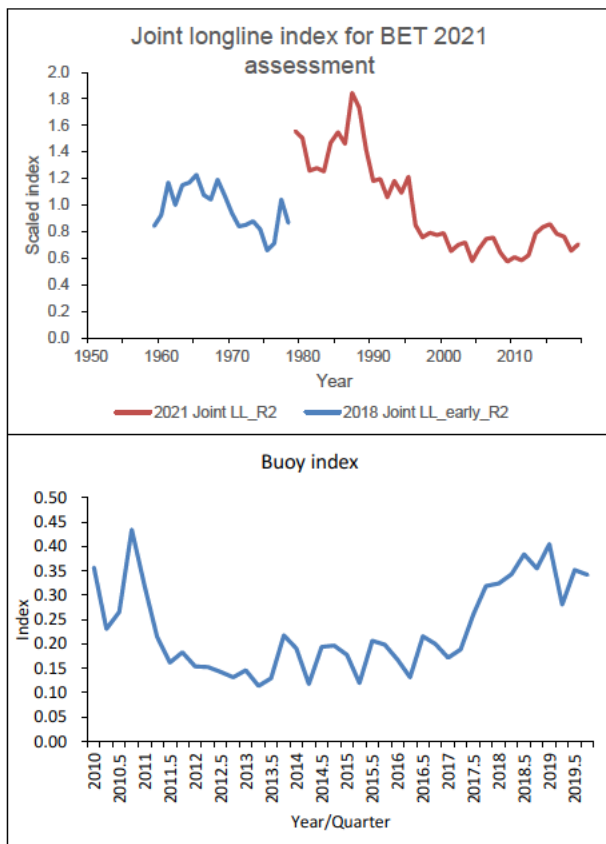
主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布（2010～2019年）
青：はえ縄、赤：竿釣り、黄：まき網、灰：その他。
凡例の丸は上から3万トン、6万トン。



大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量（1950～2023年）



標識放流、脊椎骨及び耳石から推定されたメパチの成長曲線



資源評価ベースモデルに用いた資源量指数 (上: はえ縄統合 CPUE、1959~2019 年、下: FAD 漁業に用いるエコーサウンダーブイ (魚探が付いていてその情報を無線で送信し、離れた場所から鰯集魚群量をモニターできるブイ) のデータを利用した小型魚の資源量指数 (2010 年第 1 四半期~2019 年第 4 四半期))

SS3 の 27 シナリオで推定された資源状態の推移
青丸は最新年 (2019 年) の資源状態。